

【学校教育目標】前向き Be positive! めざす生徒像		【使命・存在意義（ミッション）】		【甲奴中学校区小中一貫教育目標】								
めざす生徒像 ・高い志をもち、課題解決に向けて主体的に学び、根拠をもとに正しく行動する生徒 ・人間性豊かで思いやりがあり、他者と協働的に取り組む生徒 ・一歩前に踏み出し、ねばり強く最後まで取り組む生徒		【使命・存在意義（ミッション）】 ・ふるさと甲奴を誇りに思い、確かな学力を身に付けさせるとともに、将来を見据え主体的に学び、根拠をもとに正しく判断し行動する生徒を育成する。 ・生徒会を中心に生徒の組織的な自主活動を進め、主体的に学び高め合う集団を育成する。 ・異文化間協働活動を推進し、グローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力を育成する。 ・甲奴中学校区コミュニティ・スクールとして小中一貫教育を推進し、保護者・地域とともに将来を担う生徒を育成する。		ふるさと甲奴を誇りに思い、自ら未来を切り拓いていく子供 【資質・能力】 「課題を発見し解決する力」 「コミュニケーション能力」 「乗り越える力」								
中間経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標（☆は取組指標、★は成果指標）		結果と分析		改善方策					
			指標評価	評価	指標評価	評価						
確かな学力（知）	学力の定着	・基礎・基本の確実な定着のための学習 ・ICTを活用した個別最適な学習と家庭学習の充実	★全国学力・学習状況調査及び三次市学力到達度検査において全学年の各教科平均値と全国平均値との差を昨年度より向上させる。	a	B	○4月に実施した全国学力・学習状況調査では昨年度の三次市学力到達度検査と比べ全国平均値との差が国語が1.6ポイント、数学が5.0ポイント向上した。特別支援教育の視点を取り入れたことで、誰もが分かりやすい授業を展開することができた。その結果、生徒の学習意欲が高まり、調査結果を向上させることができた。 ○各教科の授業で端末による個別最適学習や協働的学習を意図的に取り入れている。またフォローアップ学習においてデジタルドリルを活用している。ただし、家庭学習での活用は一部の教科のみに留まっている。	○特に問題文の読解に課題が見られることから、長文を読み取るためにヤングスポットを活用した要約の練習や、各授業での読解問題への取組を継続していく。 ○より効果的な一人一台端末の活用のために、特に協働的な学習の場における活用を増やしていく。また、端末活用で自信のない教員も見られることから、全体で具体的な活用法を学ぶ研修を行ったり情報共有をしたりする場を設定していく。					
	活用力の向上 生徒が主体的に学ぶ授業	・「課題発見・解決学習」の質を高める授業の研究 ・実践的な英語力の向上 ・個別最適な学習による防災（河川）学習や総合的な学習の時間の推進 ・組織的・計画的な授業研究（一人一研究授業やペアによる授業研究）	★生徒アンケート「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』『やってみよう』と『やってみよう』と80%以上にする。 ★生徒アンケート「積極的に英語でコミュニケーションをとりようとしている。」を80%以上にする。 ☆総合的な学習の時間において個別最適な学びを実現する授業づくりを行う。 ☆学びの革新を意識した一人一研究を行う。	b a a a				○「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』『やってみよう』と思います。」の肯定的回答率は70.3%であった。各教科において身近な生活を用いた課題設定等をし意欲を引き出すとしているが、生徒の中には既習事項と繋げられず「課題解決が困難だ。」と考え意欲を高められないといった場面も見られる。 ○「積極的に英語でコミュニケーションをとりようとしている。」の肯定的回答率は100%であった。ALTと日々の会話やパフォーマンステスト、さらにはアメリカス市の生徒との交流を通して英語を使うという意識が高まったと考えられる。 ○総合的な学習の時間における個別最適な学びへの取組は、探究の段階でICTや文献等、自分に適したものを選択すると共に、まとめ・発表においてもより効果的な方法の選択を行い個に応じた学習に取り組ませている。 ○授業研究の年間の計画に基づき、今年度は特に個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて個への手立ての工夫を意識した授業づくりを進めてきた。また、特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりとして学校サポート事業とも関連させながら進めている。				
	豊かな心（徳）	生徒指導上の諸課題の解決	・個別最適な対応を見据えた積極的生徒指導の推進 ・生徒が安心して過ごすことのできる環境整備 ・あいさつ（先言後礼・4秒礼）の励行・徹底 ・生活意識アンケート・デイリーライフ・班長会等から生徒実態を把握し、面談とSCによるカウンセリングの実施 ・関係機関との積極的な連携 ・道徳価値の自覚を深める授業	★年間30日以上欠席がある生徒（不登校生徒）数を昨年度比50%以下にする。 ☆生徒アンケート・デイリーライフ・面談から生徒実態を把握するとともに、SCによるカウンセリングを実施する。 ★生活アンケート「自分のよさは、まわりの人から認められていると思いますか」を90%以上にする。 ★i-checkで、いじめのサイン・対人ストレスを標準スコア50以上にする。 ★「道徳科」では、「『道徳の時間』で考えたことを日常生活に生かそうとしている。」を90%以上にする。	a a b a	B	○不登校傾向生徒1名(昨年度3名)、9月末時点で欠席が92日。学校への登校や外出はできていないが家庭では落ち着いて過ごしている様子である。なお、担任が家庭訪問しても本人と会うことはできていない状態である。 ○1学期に各学年全生徒のSC面談を実施した。一人一人ストレスカウンセリングを行い、生徒の実態を各学年で共有できた。 ○「自分のよさは、まわりの人から認められていると思いますか」の肯定的回答の割合は88.9%であった。昨年度の83.3%に比べ増加した。運動会などの行事で生徒会中心に目標をもたせ、成功させることができたが、行事での自己の振り返りをする方法に課題が残る。 ○i-checkにおけるいじめのサイン・対人ストレスの標準スコアはそれぞれ53.3、54.6であった（昨年度54.8、53.3）。いじめのサインは昨年度より低下し、本年度いじめを2件認知した。その解決に向けて早急に取組み、現在は解消している。 ○「『道徳の時間』で考えたことを日常生活に生かそうとする」の肯定的回答は85.2%であった。読み物教材を通し、道徳的価値について思いを深めているが、それを自己の生き方におきかえて考えさせる手立てが不足している。	○校内の特別支援教育委員会で決めた、保護者との連携を毎日とることと本人への登校刺激は少なくし、心の回復を待つという2つを継続して行う。また、庄原特別支援学校の巡回相談でアドバイスをもらった進路選択の情報収集を進めていく。 ○引き続き、SC面談を計画し、カウンセリングを行っていく。 ○行事終了後、自己を振り返るための方法を見出したり、自己を認める機会を増やしていく。 ○引き続き、担任だけではなく、学校全体でいじめのサインを見逃さない体制を構築していく。授業や学校生活での小さな気づきを共有したり、道徳の教材の中でいじめの題材の発問を学年で考えたりしていく。 ○いじめ防止委員会に加えて、引き続き特別支援教育委員会を開き、特別支援教育についても学校体制として取組をすすめる。 ○道徳授業の振り返りに関して、自分ごととして捉えるような仕掛けや日常生活と関連する授業改善をしていく。				
		主体的な生徒会活動	・生徒が企画する生徒会・専門部の活動 ・いじめ0プロジェクトの継続・深化 ・思いやりの木の取組	★生徒アンケート「あなたは、生徒会活動に真剣に取り組みましたか」を90%以上にする。 ★ボランティア活動への参加率を70%以上にする。	a				A	○「あなたは、生徒会活動に真剣に取り組みましたか」の肯定的回答の割合は100%であった。生徒会行事の取組として生徒提案の内容だったり、運動会では生徒が考えた種目を実際に行ったりことが成果に繋がったと考えられる。 ○生徒会で花植えボランティア活動を11月に計画している。多くの生徒が参加したいと思えるように、取組を進めていく。	○引き続き、生徒会行事を充実させるため、生徒主体の取組を継続していく。 ○引き続き、生徒会が各クラスで呼びかけを行うなど、生徒が積極的に参加できる取組を進めていく。	
健全な体（体）		生活習慣の定着と体力の向上を図る。	基本的な生活習慣の確立	・小学校との連携による三点固定（就寝時刻・起床時刻・家庭学習開始時刻）の取組 ・「ストップ9」の取組	★三点固定の取組を行い、それぞれの定着率を75%以上にする。 ★生活リズムチェックによる「ストップ9」の達成状況を70%以上にする。				a a	A	○生活リズムチェック6月の三点固定の定着率は、79.0%で目標値に達することができた。 ○ストップ9については、今年度、ストップ9への意欲を高めるために、コース選択制（ストップ8・9・10）にして行った。全体の達成率は、77.8%で意欲は高まった結果となった。しかし、ストップ10を選択する生徒が約半数のため、メディアコントロールに対して引き続き課題がある。	○生活リズムチェックについて、目標設定が甘い部分もあるため、事前保健指導を丁寧に行い、適切な目標設定をさせる。 ○保健だよりや掲示物で生活リズムの大切さを呼びかける。 ○毎月のストップナインデーにおいて、生徒会体育部で呼びかけを行い、取組の意識を高める。
		基礎体力の向上	・体力づくり計画による体育授業の実施 ・新体力テストの課題種目の取組	☆体力づくり計画による体育の授業の実施をする。 ★新体力テストで、県平均以上の種目を70%以上にする。	a				A			
信頼される学校	働き方改革を推進し、組織力を向上させ、「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。	組織力の向上	☆不祥事防止研修は、主任や主事・学年会で担当を決め、計画的に一人一回研修を担当する。	a	B	○不祥事防止研修は、年度当初の計画通り9回実施し、内容もそれぞれが自分事として捉えられるようロールプレイや協議等を取り入れる等、担当者が工夫して行っている。 ○働き方改革については、93%の教員が業績評価で3以上の評価をしており、100%ではなかった。職員勤務外在時間数は昨年度と比べ増加傾向にあり、業務改善を進める必要がある。 ○第1回保護者アンケートの「学校は地元の小学校と連携した教育を行っている」の項目では、肯定的評価は96.4%であり、昨年度同時期と比べて若干減少したが、高い数値を示した。学校通信で定期的に情報発信をしたり、コミュニティ・スクールの取組として小学校と連携した行事等を行ったりすることで保護者の理解に繋がっていると思われる。 ○生徒アンケートにて「ふるさと甲奴を誇りに持っている」に肯定的評価をした生徒は92.6%であった。こうぬまるごと大運動会の実施や、総合的な学習の時間で防災を中心に地域について学ぶ機会を通して、生徒の「ふるさと甲奴」に対する思いが高まっていると考察される。	○不祥事防止研修は教職員全員が自分事として捉えられるよう、研修担当が創意工夫を凝らして内容を工夫し、実施する。 ○勤務外在時間の減少に向けて、todoリストの作成や、優先順位を基に効率よく業務を遂行するよう、研修等で呼びかける。 ○整理整頓や個人情報の厳重管理を行うよう、教職員で声を掛け合い、不祥事防止に努める。 ○コミュニティ・スクールの取組や、小中合同で取り組んだ成果を便りやHPで積極的に発信する。 ○総合的な学習の時間を中心に地域に根差した学習に取り組む、より深い知識を身に付けると共に、行事等に積極的に参画することで「ふるさと甲奴」への誇りをより育む。					
			★働き方改革について研修及び業務改善を行い、業績評価（自己申告）書の「働き方改革に関わる項目」において、3以上の評価をしている職員を100%にする。	b								
			★小中一貫教育推進協議会を中心に小中で統一した取組を行い、保護者アンケートで「学校は地元の小学校と連携した教育を行っている」の肯定的評価を80パーセントにする。	a								
			★生徒アンケートで「ふるさと甲奴を誇りに持っている」の肯定的評価を90%にする。	a								
			指標評価・評価	a・A	b・B	c・C	d・D	e・E				
			基準	100%以上の達成度	80%以上100%未満の達成度	60%以上80%未満の達成度	40%以上60%未満の達成度	40%未満の達成度				
				十分に目標を達成できた	概ね目標を達成できた	ある程度目標を達成できた	あまり目標を達成できなかった	目標を達成できなかった				